

第6回 桜原桜賞 入賞作品

一般部門

福岡市長賞

西行を偲びつつ見る山桜

われもこの世の過客の一人

神奈川県横浜市 合志 義文

福岡市議会議長賞

花冷えを吹き飛ばさんと起立して

歌う課長の荒城の月

神奈川県川崎市 大和 嘉章

福岡市南区長賞

満開の桜の枝を引き寄せて

動かぬ妻の手に触れさせぬ

福岡市西区 後藤 幸雄

西日本新聞社賞

花積めば花の重さに傾きぬ

笹舟ひとつ春の夕暮れ

東京都台東区 川辺 昭典

桜原桜賞実行委員会長賞

ゆっくりと電車は速度をゆるめつつ

桜の森のそのふところへ

宮城県多賀城市 渋谷 史恵

桜原桜花守り会賞

満開の花の中からつぎつぎと

園見出で来る象の滑り台

大阪府池田市 太田 省三

中学生部門

福岡市長賞

十六夜が淡く夜桜照らしだす

見つめる母に毛布を渡す

大阪府立天王寺高等学校 / 2年 大川 千明

福岡市議会議長賞

満開の桜原桜を写メールで

祖母に元氣を送ってあげる

福岡女学院中学校 / 3年 重村 あき

福岡市南区長賞

新学期前髪切りすぎどうしよう

遠くの方で桜が笑う

福岡市立花畑中学校 / 2年 濱部 灯

西日本新聞社賞

バス停で風が運んだ桜花びらは

キラキラ輝く明日への切符

福岡市立花畑中学校 / 3年 齊田 麻邑

桜原桜賞実行委員会長賞

足早に去りゆく時代の冷たさに

変わらぬ花がもたらす安堵

広島なぎさ高等学校 / 1年 見崎 麻梨菜

桜原桜花守り会賞

私には無くてあるよ桜には

きせつを包む柔らかいこと葉

山形県立五田東高等学校 / 2年 門崎 真有子

小学生部門

福岡市長賞

春風と寒のもどりがおにごっこ

行ったり来たり雨・雪・桜

麻生学園小学校 / 6年 尾崎 結仁

福岡市議会議長賞

青空にもも色の花散りばめて

まるで私のクレヨン箱だ

麻生学園小学校 / 5年 山浦 彩智

福岡市南区長賞

桜道おばあちゃんにかたをかき

ゆっくり歩く二人で笑顔

新宮町立新宮東小学校 / 4年 安部 亮太

西日本新聞社賞

なかなかおきくらのしたでできるかな

けんかしてもずっとともだち

福岡市立長丘小学校 / 2年 平野 克

桜原桜賞実行委員会長賞

いつの日もじっと立っておはようと

みんなのことを見守る桜

福岡市立西高宮小学校 / 5年 宮内 快

桜原桜花守り会賞

かたにのるさくらをそといてもうとに

よろこぶすがたかわいすぎです

福岡市立西花畑小学校 / 5年 宮本 里愛

「桜原桜」のエピソード

昭和59年の春。

福岡市南区桜原の、小さな桜並木が道路の拡張で、開花を目前に伐られることに。それを悲しんだ一住民が

『筑前の花守り 進藤市長殿

花あわれせめてはあと二句

ついの開花をゆるし給え』

せめては桜が咲くまで伐らないで：と、短歌に託し、嘆願したのです。多くの共感の歌が寄せられ、花哀れの大合唱に広がりました。その中に、

『桜花惜しむ大和心のうるわしや

とわに匂わん花の心は

香端麻』

の二首があり、のちに進藤一馬福岡市長の『返歌』とされました。

そして計画は桜を活かす道路に変更され、桜原桜に永遠の開花が許されました。市民と行政の心のキャッチボールで守られた桜並木は、桜原桜公園として市民に親しまれています。

※二句〳二十日間 ※ついの〳最後の

